

東川町議会第1回定例会で新年度予算可決 松岡市郎町長「3つのワ(話、和、輪)」を大切に積極行政展開

平成22年度東川町議会第1回定例会が3月9日から同月16日まで、会期8日間で開かれ、新年度一般会計、5特別会計(国民健康保険、簡易水道事業、公共下水道事業、町立診療所、宅地造成事業)の各予算をいずれも全会一致で可決成立しました。(3階から15階、関連16、17階)



新年度予算案など町提出議案30件、諮問1件(人権擁護委員の推薦)、議会発議案2件(町議会議員定数の定数減に伴う条例の一部改正、町機構改正に伴う議会委員会条例の一部改正)、意見書1件を審議しました。

その結果、町の新年度当初予算は、一般会計総額で約48億6千400万円(前年当初比約4億800万円、9・16%増)、5特別会計総額は約5億1千760万円(同約7千万円、11・88%減)をそれぞれ全会一致で可決。町議会議員定数は、現

14人から2人減の12人とする可決して閉会しました。この結果、来年2月28日実施予定の次期町議会議員選挙は、定数12人となります。

第1 はじめに

平成22年度行政執行の基本的な考え方について申し上げ、ご理解とご支援をお願い申し上げます。小職が町長に就任し早いもので8年目を迎えました。この間、議会を始め、町内執行機関及び各種団体との連携、さらに住民各位の深いご理解とご支援によりハードとソフトの両面から、「住民福祉の向上」を目標に積極的な行政を展開してきました。ここに関係者の皆さまに感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年の総選挙では与野党の逆転から民主党中心の政権与党が誕生し、地域主権を大きな柱の一つとして、政治主導による政治が展開されています。大きな期待と不安が入り混じった複雑な気持ちであります。本格的な政権交代の経験がない中、政権交代とはこのようなことかと戸惑いもありますが、私たち自治体の目指すものは政権交代により大きく変革するものではなく、また真の地域主権は私たち自らが作り上げて行くものと考えています。

これからも住民福祉の向上に貢献するかどうかを判断基準として「自ら考え、自ら決定、自ら実行する」行政の執行に努めます。

昨年は経済危機の問題もあり、危機的な状況から抜け出すことも含めて、SOS(スピーディ、オープン、サービス)行政の展開を進めてきました。今年には次の「3つのワ(話、和、輪)」を大切にしたい行政を積極的に展開したいと考えています。

1、「3つのワ(話、和、輪)」行政の推進

1つ目は「お話し」の「話」

であり、会話や対話の「話」であります。地域の住民の話、職場の話など「人と人の話」を大切にし、行政に生かしたいと考えています。このためには各種情報を出来る限り迅速に発信し、「話」の展開が図られるよう努めます。

議決機関であります議会との対話はもちろんのこと、執行機関であります農業委員会や教育委員会との対話、更に自治組織であります地域自治振興会などの対話を大切にした行政展開を図っていきます。

2つ目は「人の輪、知恵の輪、支え合いの輪」などの輪であります。住民一人ひとりが知恵を出し、お互いに励まし合い、支えあうことができ「人と人の輪」が大切であります。また出会いによる「人と人の輪」がより一層拡大するように努めます。

3つ目に「調和や平和、そして日本を代表する大和」の「和」、和魂洋才の「和」であります。行政はバランスが大切であり、「人と自然」「人と文化」「文化と自然」

の調和を大切にしたい町づくりに努めます。私たちは「大和の国」に育った日本人とし

ての自信と誇りを持ち、守るべき文化、伝統(和魂)と変えるべきもの(洋才)との調和を図りながら、活力ある地域づくりを進めていく必要があります。また地域の平和、世界の平和のために一人ひとりの責任ある行動を大切にした行政を展開します。

第2 自立へのホップ4「人間愛あふれる、楽しい基礎自治体づくり」

地域主権を重点とした政治の展開により地方自治体の役割はますます高まり、合わせて各自治体の決断と実行、そして責任が一層強くなつてきます。パソコンや携帯電話が普及し、「話」ではなく「文字通信」としてのコミュニケーション機能が強くなつてきています。このような中にある人間であることの証としての「話」機能を生かし、人間愛あふれる「人の輪」を大切にし、「調和」のとれた楽しい基礎自治体づくりを目指します。

なお、昨年度の行政執行方針の中に「東川町総合自治基本条例(案)」の検討をする旨を明記しておりますが、地